

**授業概要**

保育内容（表現-身体）Ⅰを発展した内容として、本授業では、身体表現を指導するにあたっての指導案計画や作成など実践力を高める。

子どもの感性を豊かにして、子供が自ら表現していこうとする力を養うために、保育者は多くの経験を提供する必要があります。本授業では、学生が様々な経験を経た上で、子供の表現力を引き出せる指導力を養う。

オンライン授業が併用される場合は、シラバス内容の変更もあるので、追って指示する。

**授業計画**

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス                       |
| 第 2 回  | リズムあそび① いろいろな音楽、いろいろな音で     |
| 第 3 回  | リズムあそび② 動物になって動こう           |
| 第 4 回  | リズムあそび③ 大好きな曲で踊ってみよう        |
| 第 5 回  | 表現あそび① 誰かのまねっこ              |
| 第 6 回  | 表現あそび② シンメトリー ユニゾン カノンを利用して |
| 第 7 回  | 表現あそび③ 絵本を表現してみよう           |
| 第 8 回  | 表現あそび④ 何かになってみよう。自由表現       |
| 第 9 回  | 実技テスト スキップ、ツーステップ、          |
| 第 10 回 | 模擬保育指導 指導案の書き方              |
| 第 11 回 | 模擬保育指導 指導案作成初稿              |
| 第 12 回 | 模擬保育指導 指導案作成最終 リハーサル        |
| 第 13 回 | 模擬保育① 3歳児対象                 |
| 第 14 回 | 模擬保育② 4歳児対象                 |
| 第 15 回 | 模擬保育③ 5歳児対象                 |
| 第 16 回 | 模擬保育の振り返り 自己評価&相対評価、反省      |

**到達目標**

- ・多くの体験学習によって、振付や踊り、表現への抵抗感をなくし自ら楽しく身体表現できるようにする。
- ・グループでの創作や発表を通じて協働性を身につけ、自己表現できる力を培い、実践力を身につける。

**履修上の注意**

- ・全回出席を原則とする。見学は不可、事情がある場合は相談のこと。
- ・遅刻は、20分までを認めるが、それ以降は欠席とする。遅刻3回で欠席1回の扱いとする。
- ・全ての回で運動に適した服装・身だしなみで受講すること。胸にA5サイズの名前ゼッケンをつける。
- ・初回から用意するもの：体操着（ジャージ）、A4サイズのノート（40枚綴り）、A5サイズ名前ゼッケン

**予習・復習**

予習：シラバスを確認。前回配布されたプリントの内容で不明な部分を各自で調べておく。

復習：授業内容のチャートシートを配布するので、ノートに添付。

**評価方法**

レポート・課題80%、受講態度20%とする。

レポート・課題には、リアクションペーパー、記録ノート、指導案、グループ発表、ステップ等の評価を含む。

**テキスト**

教科書名：『幼稚園教育要領』

著者名：文部科学省

プリントを配布する。

参考文献：『子どもの運動・表現遊び』 宮下恭子編 大学図書出版